

# 4年間の学びとカリキュラム

健康科学部  
看護学科

## 1年次 看護師になるための基礎を築く

「食と健康」や「人体機能」について看護の基礎を学び、看護師に必要な知識や技術のベースを固めます。

**Point** 今後に役立つ基礎知識の修得

初年次セミナーを通して、授業の受け方、レポートの書き方などの大学生に必要な基本的な能力を身につけます。その上で人体の構造や薬の作用・副作用など医学的な知識だけでなく、患者や地域住民の方々と関わるなかでコミュニケーション能力を養います。看護学の基本を学ぶと同時に、ベッドメイキングや血圧測定などの基礎看護技術を学んでいきます。

## 2年次 さらに深めた知識を実習を通して専門性を高める

成人、小児などさまざまな対象を取り巻く環境についての理解を深めます。さらに得た知識を活用し、確実に修得するための実習や実験を行います。

**Point** 3年次の実習の下地作り

病気と治療について学び、3年次の臨地実習で受け持つ患者を理解するための下地を作ります。看護専門科目(小児・母性・成人・老年・在宅)の看護について、講義と演習を通して学びます。1年次の基礎看護技術で学んだ技術に加え、より高度な看護技術を身につけ、2年次最後の基礎看護学実習では実際に受け持った患者の方々に、これまでに身につけた技術を提供します。なお、2年次後半には、保健師免許希望者(保健師課程)の選抜が行われます。

## 3年次 さまざまな状況に対応した看護を学ぶ

学内・校外実習、臨地実習、発展的な実習を通して、看護師の業務を体験し、実践力を養います。

**Point** 仮想事例での学修と臨地実習

前期には後期の臨地実習に向け、本当に病気などにかかっている状況の人を想定した事例を用いて論理的思考の訓練を行います。小児看護や母性看護、老年看護に必要な専門技術を学びます。さまざまな病院や施設で、小児・母性・成人・老年・精神の臨地実習での実体験を通し、これまでの学習内容を駆使した患者や入所者へのかかり方より良い看護の提供について学びます。

## 4年次 国家試験に向けて4年間を総括

これまでの学びの総まとめとして、卒業研究を進めると同時に、看護師国家試験に向けての学修も行います。

**Point** 統合実習と卒業研究

健康栄養学科と連携しながらの看護の統合と実践実習および地域・在宅看護実習で、チーム医療を進めるための連携や地域包括ケアシステムについて学びます。保健師課程の学生は、保健所・保健センターなどで臨地実習を行います。卒業研究を通して、仕事の中で常に疑問を持つ姿勢、研究の基礎を学びます。

**Point** 国家試験対策

4年次を通し、2月の看護師国家試験での全員合格をめざして、自主学習に取り組みます。1年次から行ってきた数回の国家試験模試や集中講座、これまでの成績に応じた手厚い勉強のサポートを教員が行います。

基礎関連学科 (健康科学部共通科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康科学概論</li> <li>基礎化学(有機化学を含む) ■ 基礎生物学</li> <li>情報処理概論 ■ 基礎統計処理</li> </ul>
看護基礎 関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>[健康と食]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 口腔健康管理学 ■ 栄養学(生化学を含む)</li> </ul> </li> <li><b>[健康と心]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人間関係論 ■ コミュニケーション論</li> </ul> </li> <li><b>[健康と支援]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生活と環境 ■ 女性の健康科学</li> <li>■ 医療関係法</li> </ul> </li> <li><b>[人体の構造と機能]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人体構造・人体機能学I・II</li> </ul> </li> <li><b>[疾病の成り立ちと回復促進]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 病理/感染症学 ■ 臨床薬理学</li> </ul> </li> </ul>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>[基礎看護学]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 看護学概論 ■ 看護倫理・生命倫理I</li> <li>■ フィジカルアセスメント <b>授業Pick up ①</b> (看護生理学を含む)</li> <li>■ 基礎看護技術演習I 基礎看護技術</li> <li>■ 基礎看護技術演習II 日常生活援助技術</li> <li>■ 基礎看護学実習I</li> </ul> </li> <li><b>[地域・在宅看護学]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域看護学概論</li> <li>■ 地域ふれあい実習</li> </ul> </li> <li><b>[老年看護学]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 老年看護学概論</li> </ul> </li> </ul>

※全学共通科目は除きます。 ■ は本学の特徴的な科目です。 ■ は卒業必須科目、■ は選択科目。カリキュラムは変更する場合があります。

### 授業Pick up



**看護実践に活用できる能力を養います。**  
フィジカルアセスメントとは、患者さんの訴えを聞き、情報収集を行い、身体機能を評価することです。そのために、問診とフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)の基本を学修し、その解釈について理解を深めます。



**母子に必要とされる看護援助について理解を深めます。**  
妊娠・分娩・産褥期にある女性と、胎児期を含む新生児期にある母子の生理的・心理的・社会的な特徴について学びます。ウェルネスをめざした看護援助を提供できるための、基本的な知識・技術・態度を修得します。



**健やかな老い、その人らしい暮らしに必要な老年看護について学修します。**  
医療施設に入院している高齢者を対象に、健康障害が及ぼす影響や、退院後の生活を捉えた看護計画を立案し、老年者理解のための基礎的能力を修得します。さらに実習を通して多職種との連携を学び、超高齢社会における看護師の果たす役割を認識し、老年看護について自己の考えを深めます。



**在宅療養に伴う基本的な看護技術を理解します。**  
口から食事を摂取できない療養者へチューブから栄養補給をしている場面です。在宅療養者の居宅への訪問看護実習にむけて、療養者の生活をイメージし、家庭環境への配慮や家庭で準備できるものの活用など実習で経験する可能性の高い技術を修得します。



**学んできた専門的知識や技術を活用し、小児看護の実状を学びます。**  
病院や障がい児施設、保育園等の実習を通して、子どもとその家族について理解を深めます。また臨地実習においては、看護計画の立案、実践、評価といった一連の過程を通して子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、成長・発達や様々な健康状態に応じて看護を実践するための基礎的能力を身につけます。



**チームにおける看護師の役割を踏まえた実践能力を養います。**  
高齢者のデイサービス事業における実習の一面面です。最後の実習となる「看護の統合と実践実習」では、人々の健康生活を支援する保健・医療・福祉体制の実際を理解し、これまでの実習経験を発展させ、チーム・連携を意識した看護実践能力を高めます。

健康科学部 健康栄養学科  
健康科学部 看護学科  
健康科学部 理学療法学科  
健康科学部 作業療法学科  
家政学部 生活環境学科  
文学部 児童教育学科  
短期大学部 生活学科  
短期大学部 保育学科  
大学院